

愛犬の友

9

2009 SEP.

特集

ミニチュア・ピンチヤア?

似て非なる犬種

アイルランド初開催

ヨーロピアン・ドッグ・ショー



もっと知りたい
犬種特集

アフガン・ハウンド
 シー・ズー
 ジャーマン・シヨート
 ヘアード・ポインター
 スコッティッシュ・テリア
 ノーリッチ・テリア

ところ変われば、需要も変わる！

ポーランド人が好む ペット・ホテル

ポーランドでも休暇を犬と一緒に過ごす人が増えて
いる。が、夏の人気バカンス先のエジプトなど、大陸をまたぐ外国旅行へ気軽に犬を連れて行くのは難しく、やはり必要となるペット・ホテル。

今では、人より犬のホテルを予約するのが困難な状態というほどで、この需要にあわせ、ここ1、2年でペット・ホテルが急増しています。

しかし、法的整備がきちんとされていなかったため、質とサービスはピンからキリまで。屋外の小屋をホテルと呼ぶこともあれば、個人宅の地下室の1室をホテルと呼ぶことも……。なので、ホテル選びは慎重に慎重を重ねることが必須なのです。

他の犬の安全上、アルファ気質の雄は2頭以上預からないように注意をはらっているが、それでも時折重なることがある。その場合は前庭と裏庭にわけて遊ばせる。それでももちろん、アルファ気質の犬も1頭で隔離されることなく、性格の合う他の犬と一緒に遊ばせる。こちらは裏庭から覗き込んでいるピット・ブルと彼と気の合う犬たち。

広い運動場が大人気

最近ではセレブを中心に小型犬人気もでてきていますが、まだまだ中型犬、大型犬が人気の中核。大型犬ともなれば、多くの犬は運動が必要となります。なので、ポーランドのペット・ホテルに要求されるのは、広い運動場があること。

日本で求められるピカピカの清潔さや高級感はそのほど重要視されていません。もちろん、きれいに越したことはないのですが、毎日掃除して不潔でない、いい意味での大雑把な清潔さがあればそれでよし。



ホテル・プシヤ・クライナ (ワルコの国のホテル)

ポーランドの南部地方にある、飼い主の間で評判のいい犬のホテルを訪ねてきました。グリビツェ郊外にある「ホテル・プシヤ・クライナ」。

このホテルの目玉のひとつは、広い運動場。大型犬も小型犬も同じ運動場で遊ぶのですが、喧嘩を誘発しないように危険犬種に認定されている犬やアルファ気質の雄が複数になると、その犬たちを分けて管理しています。

運動場だけでなく外への散歩にも犬を連れて行くので、運動が必



お泊りにやってきた犬。飼い主は、いつもの寝床と普段食べているフードを持参。

要な犬の飼い主には絶大の人気を誇るこちらのホテル。その証拠に、1年を通してルームが半分以上空くことはないそうです。

しかし、どの犬でも預かるわけではなく、初めて利用する犬の場合、事前に一度ホテルへ来てもらい、適正をチェックします。他の預かり犬も同じ運動場で遊ぶので、攻撃性の強い犬はお断り。飼い主にしてみれば自分の犬は「遊ぶのが好き、ちよっかいを出すのが好き」という性格でも、はたから見たらどう見ても「喧嘩好きな犬」がしばしばいるとか。電話での説明では、どの飼い主も「わが家の犬自慢」

が始まり、預かった後、聞いていた話とまったく違うことが度々あったため、この「適正テスト」を導入したのだそうです。

この「適正テスト」でまず受け入れを断るのは、人間に牙を剥く犬。このような犬たちのほとんどは、パピー・スクールに通ったことなければ基本的なしつけも入っていない、社会化ができていない犬たち。

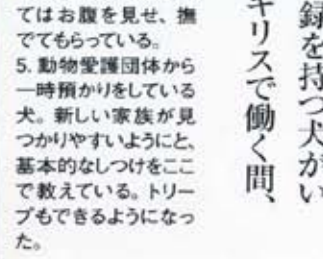
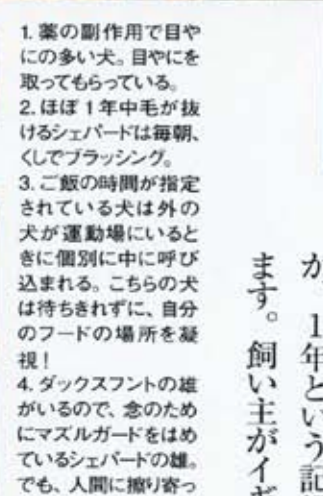
このホテルのオーナーであり訓練師でもあるヨアンナさんは、そのような飼い主には犬の社会化と訓練の必要性をしつこく説きます。

「犬を飼っているという事実に満足しているだけの飼い主が多いの。他の犬と遊ばすこともせず、しつけもまったくしていない人も少なからずいるのね。そして旅行の前に親戚一同から犬の世話を断られて、ここにつれてくるパターンが多いのだけど、人には咬みつこうとする、犬同士のコミュニケーションが取れないという犬はこちらでも引き受けられない。でも、それは犬のせいではなくて、今まで何もしなかった飼い主の責任なの」



こちらのホテルのオーナー兼従業員のふたり、ヨラフィヤウコフスカさん(左)とヨアンナヘルレイェフスカさん(右)。

(上) 大きい犬も小さい犬も、撫でてほしくて、人が座ると集まってくる。
(下) 事務所の入り口。奥のほうでは、犬を洗うことができる。



ホテル・プシャ・クライナの1日

- 7:30 すべてのルームを開ける。建物内の消毒清掃。庭のウンチ拾いと掃除。朝ごはんを食べる犬は各自ルームに戻って食事。犬の預け・引取り。
- 12:00 犬たちは各自ルームに戻る。
- 16:00 犬は再び運動場へ。
- 17:00 預かり・引取り。訓練・散歩。
- 19:30 犬は各自ルームに入り、食事。
- 20:00 朝まで寝る。

<ホテル・プシャ・クライナの料金とサービス>

犬の大きさには関係なく1泊35€ (2009年7月の円換算で約1000円)。追加料金でトリミングやホテルまでの送迎、基本コマンドの習得などのサービスがある。

1. 薬の副作用で目やにの多い犬。目やにを取ってもらっている。
2. ほぼ1年中毛が抜けるシェパードは毎朝、くしでブラッシング。
3. ご飯の時間が指定されている犬は外の犬が運動場にいるときに個別に中に呼び込まれる。こちらの犬は待ちきれずに、自分のフードの場所を凝視!
4. ダックスフントの雄がいるので、念のためにマズルガードをはめているシェパードの雄。でも、人間に寄り寄ってはお腹を見せ、撫でてもらっている。
5. 動物愛護団体から一時預かりをしている犬。新しい家族が見つかりやすいようにと、基本的なしつけをここで教えている。トリブもできるようになった。

長期滞在の犬たちとその理由

このホテルを利用する犬の多くは平均約1週間の滞在なのですが、1年という記録を持つ犬がいます。飼い主がイギリスで働く間、

とキツバリと彼女は言います。受け入れを拒否された犬の飼い主の多くは「もう旅行チケットも購入しているのに困る!」などの勘違い、筋違いな不服を並べるようですが、中には潔く旅行を取りやめて犬の訓練に通い始めた飼い主もいたそうです。

犬を預かれる親戚がいないということでも1年の預かりを希望したのだそうです。

ここ数年、ヨーロッパの労働市場がポーランド人に解放されたのを期に、外国へ働きに行くポーランド人が急増しました。その影響を受けたのが彼らの飼い犬たち。犬の掲示板では「仕事で外国へ行くので犬を連れて行けません。新しい飼い主を探しています」というメッセージが毎日のように見られました。

中には新しい飼い主が見つからなかったのか、もしくは探そうともしなかったのか、保護所(日本の保健所のようなところだが、殺傷処分はない)に連れてこられる犬もいました。

「バケーションや長い週末になると、飼い主がポーランドに舞い戻って犬をホテルから引き出していたのよ。長期預かりをするとホテルの犬の中で順位づけができてしまうので、本音としては避けたいのだけど、あそこまで犬を大事にしている飼い主の頼みを断れないわ」とヨラさん。

その他にも、長期滞在するのは動物保護団体が保護した犬たち。許容犬数をはるかに超えた檻に入れられている、劣悪状態の保護所から引き出された犬を、ホテルが預かるというもの。こちらのホテルも3つの団体と協力関係を結んでいて、現在2頭の犬を2時預かりとして面倒をんでいます。平均滞在日数は1〜2カ月。

保護された犬のためにも、ホテル内の犬の中で順位づけができないうためにも、できるだけ短期間の滞在になるよう、ヨアンナさんは毎日この犬たちとの訓練を欠かしません。

「しつけが入っていれば、受け入れ家庭も見つけやすいでしょ? この活動自体に、金銭的な利益はまったくないのよ。でも、これで1頭でも多くの犬が幸せな家庭を見つければ、いいじゃない」。

言葉の端々から犬の幸せを願っていることが感じられるヨラさんとヨアンナさんのおふたり。ホテル・プシャ・クライナで預けられている犬たちが皆幸せそうなのにも納得ができました。